令和４年度　岡山県農林水産総合センター農業大学校評価システムシート（実績）

教育目標	岡山県農業の次代を担う人材の育成並びに就農支援

重点目標	A　農業を志す意欲ある学生の確保	総 合 評 価	B	評価基準（達成度）　A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

課　　題		活動計画（具体的方策）	評価指標（数値目標）	達成度と活動の実施状況	評価	次年度への課題と対応策
1	幅広い人材確保に向けた学生募集活動の実施	・オープンキャンパスを３回開催し、１回目は県内農業関係高校に対象を絞りながら、その対象が求める情報提供を行い、農大への進学意欲を醸成する。２，３回目は、特に対象を絞らず多くの方にPRを行う。 ・学校見学への個別対応等により、農業大学校の理解を図る。	・参加人数：延べ100名以上 （R3年度実績：44名） ・学校見学対応件数：10組 （R3年度実績：13組）	・参加人数：93名 （①39名、②34名、③20名） 施設や専攻の動画紹介、少人数意見交換会など、コロナ対策を施したうえで積極的な情報提供に努めた。 ・学校見学対応件数：５組 ・個別の見学が２組、高校のクラス単位の見学が３組あった。	B	・オープンキャパスでは動画を使った学校紹介、専攻紹介が非常に有効であった。 ・学校概要の説明と併せ、ほ場等の見学により理解を深めた。 ・オープンキャンパス以外にも、個別見学で対応可能であることをPRする必要がある。
2	高校との連携強化（農大への理解促進）	・コロナ禍により従来型の県内全高校訪問は難しいため、訪問先を農業関係高校に絞り、訪問者も校長副校長に絞って訪問の効果を高める。 ・農業高校の校長会への出席や進路担当教諭との連絡会議の開催により、情報交換を行い、課題の把握に努める。 ・高校の進路ガイダンスに積極的に参画し、情報を提供する。コロナ禍におけるオンラインでのガイダンスにも対応していく。	・学校巡回：延べ16校 （R3実績：延べ10校） ・校長会等出席：3回 ・連絡会議開催：2回 （R3実績：3回、2回） ・ガイダンス等参加：20回 （R3実績：18回）	・学校巡回：延べ17校 農業関係高校8校で延べ11回に加え、一般高校で在校生の出身校6校を訪問し、学生募集活動を行った。 ・校長会等出席：4回 農業高校校長会等の会議、行事に出席 ・連絡会議開催：2回 ・ガイダンス等参加：21回 152名 ・校長、副校長、課長で手分けをしてガイダンスに参加した。	A	・近年受験者が出ている高校への訪問を強化し、情報収集を図る。 ・高校ガイダンスは、コロナ禍にあってもＰＲ手段として非常に有効に機能していた事から、今後も重点的に取り組んでいく。
3	令和４年度入学生の確保	・ポスター、チラシ、パンフレット等を作成配布するとともに、ホームページ等により入試情報を発信する。 ・県内市町村・農協へ文書や電話で、入試に関する情報の広報誌掲載依頼を行い、広く学生を募集する。 ・学校行事や学校の様子等の動画配信を行い、学校や農業に興味を持ってもらう。	・志願者数：　　50名以上 （過去5年平均：43.4名） ・広報誌掲載数：15誌以上 （R3実績：15誌） ・ウエブ等を利用した情報発信：３回 （R3実績：１回）	・志願者数：55名 推薦及び一般入試を計３回実施し、募集定員を確保することが出来た。 ・広報誌掲載数：9誌 市町、JA等に文書と電話で依頼したが目標掲載数に達しなかった。 ・情報発信：１回 各専攻の紹介動画を作成し、ＨＰに掲載した。	B	・書面、電話を問わず関係機関への働きかけを積極的に行う。 ・各種広報誌の掲載スケジュールを考慮して早めに依頼を行い、掲載件数の増加に努める。 ・今後より積極的に動画を活用するため、各種イベントや農大の日常をこまめに収録してＨＰ等で発信し、若い世代への訴求を図る。

※将来の岡山県農業の担い手育成に向け、農業を志す高校生等に対し、農業大学校のＰＲを行い、幅広い人材の確保を図る。

重点目標	B　農業大学校の魅力向上	総 合 評 価	B	評価基準（達成度）　A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

	課　　題	活動計画（具体的方策）	評価指標（数値目標）	達成度と活動の実施状況	評価	次年度への課題と対応策
1	質の高い教育の提供 （授業内容の充実・強化）	・岡山大学教授、専門分野の学識経験者等、外部講師の協力を得て、高度な教育の機会を増やす。 ・学生満足度調査の分析結果を基に授業への工夫を図っているが、その効果を確かめる。	・専門分野外部講師による授業数：前年実績以上 （R3：11講座268時間） ・学生の関心度(満足度) ：10点満点の7以上 (R3実績：7.0点)	・専門分野外部講師による授業数 ：11講座 268時間 ・学生の関心度（満足度）：6.9点 講義に関しては不満が散見されるも、実習は比較的満足度が高かった。	B	・講師陣のレベルの高さと、学生のレベルの間に乖離があるように思われる。 ・学生の能力、意欲は様々であり、できる学生に照準を合わせるか、できない学生に合わせるか難しいところである。
2	実践能力の向上（資格取得の促進）	・カリキュラムに各種資格取得に向け、補習授業で対応する等資格取得を推進する。 ・日本農業技術検定については、事前の講義での受験対策と、各専攻での専門分野の研修で、合格率アップを図る。	・資格取得者数（取得割合） ：60%以上 （R3実績：47名　35%） ・日本農業技術検定2級合格率：20%以上 （R3実績：13名 22.4%）	・資格取得者数（取得割合）：12.3% 目標値や昨年実績と比べて非常に成績が悪かった。 ・日本農業技術検定２級合格率 ：18.5%（10/54名）	B	・資格取得、農業技術検定いずれも、合格のためには職員からの積極的な働きかけが不可欠である。 ・一方、学生側には授業時間外での個人的な努力が求められる。 ・モチベーションを高めるための意識付けを続ける。
3	職員の指導能力等資質の向上	・職員の指導能力向上に向け、国等が実施する各種研修へ積極的に派遣する。 ・県教育委員会と連携し、学校現場の問題解決の職員研修を依頼し、職員のスキルアップに努める。	・国等研修会参加職員数 ：1名程度 （R3実績：2名） ・教員研修回数：１回以上 （R3実績：1回）	・国等研修会参加職員数：２名 ・教員研修回数：１回	A	・国の研修は、農業大学校での勤務経験が少ない職員を中心に、今後も継続して受講する。 ・県教委の研修は全ての職員を対象に、学生指導上の困難点や問題点の解決に向けて、一般的な教育手法を学ぶ。
4	教育環境の整備・充実	・充実した教育環境の整備に向け、機械・施設及び機材の整備、修繕を計画的に進める。 ・学生寮をはじめとする設備整備に関しては､寮自治会と話し合いながら､お互いの担当領域での整備を行っていく。	・施設整備、改修実績 （導入実績） ・学生の満足度 ：10点満点の7以上 (R3実績：6.5点)	・計画的な施設導入、修繕を行った。 ・照明器具を重点的に点検し、蛍光管の交換、破損した証明のLED化を進めた。 ・学生の満足度：6.5点 老朽化した寮、本館などに対してかなり不満を抱いている。	B	・コロナ禍､ウクライナ情勢などの影響で、資材や製品の入荷が遅れる傾向があるので、計画的に早めの執行を図る。 ・照明設備は可能な限り LED 照明と交換していく必要がある。
5	広報活動等の強化	・ＨＰの内容について十分に検討し、より魅力ある情報発信とする。 ・収穫祭や新鮮市など地域とふれあう各種イベントに関してはマスコミを積極的に活用し、農大のＰＲに努める。	・ＨＰの情報発信(更新回数) ：50回以上 （R3実績：41回） ・農大通信の発行回数 ：10回 （R3実績：８回）	・ＨＰの情報発信（更新回数）：37回 コロナ対策で各種イベントが中止となり、更新回数が低調だった。 ・農大通信の発行回数：２回 農大通信より簡便で分かりやすい「ミニトピックス」は昨年を上回る回数発信した。（15→25）	B	・収穫祭や新鮮市など各種イベントに限らず、学生の日常など些細な事柄も積極的に情報発信し、農大のＰＲに努める。

※教育内容の充実に向け、職員の資質向上に努め、実践的な教育による専門学校としての特色ある学校づくりを推進するとともに、学生の技能・知識の向上を図る。

重点目標	C　就農促進と進路指導体制の強化	総 合 評 価	B	評価基準（達成度）　A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

	課　　題	活動計画（具体的方策）	評価指標（数値目標）	達成度と活動の実施状況	評価	次年度への課題と対応策
1	就農意欲の醸成	・１年生対象の先進農家留学研修により就農への動機付けを行う。その際、留学先、内容は就農を意識し選定する。 ・農大ＯＢや新規参入者との意見交換、農業生産法人説明会により、農業経営をより深く理解する機会を提供し、就農意欲の醸成を図る。	・就農者率：50%以上 (就農率R2:37.1%、R3:45.5%) ・OB等との意見交換会：2回	・就農者率：24% （自営就農2人、法人就農5人） ・農家留学研修は、コロナ禍の影響で前半のみの実施となった。 ・従来からの農業法人説明会やアグリ・夢・未来塾に加え、新たな試みとして新農業経営者クラブ連絡協議会との意見交換を実施した。 ・海外農業研修OBによる説明会を1年生対象に実施した。この春の卒業生1名がオーストラリア研修で渡航することとなった。	B	・今年度はJA就職が非常に多かったため(11名)、法人就農が少ない傾向があった。 ・先進農家留学研修は、コロナ禍の影響で本年度も完全実施ができなかったが、今後は通常実施に戻ると思われる。 ・本年度新たに実施した新農業経営者クラブ連絡協議会との意見交換会は非常に好評だったため、引き続き実施に向けて検討する。
2	進路選択・決定の早期意識付け	・民間と連携したセミナーの開催等、早期から進路に対する動機付けを行う。 ・進路指導においては各専攻の担当と十分な情報共有を行い、適切な進路指導を行う。 ・進路希望調査、個人・三者面談等により、進路希望・就職活動状況を把握するとともに進路指導を行う。	・１年次末の進路目標決定者割合　100% ・２年次10月末の内定率：60%以上 (R2実績:60%) (R3実績:85%)	・１年次末の進路目標決定者割合：100% 社会科学基礎講座で進路決定の意識づけを行った。 ・２年次10月末の内定率：86%（25人） 個別の進路希望について面談を行った	A	・１年次に社会科学基礎講座を通じて進路決定への動機づけを行うとともに、２年次の法人説明会で絞り込みを行う。 ・就職担当の副校長と各専攻担当の先生が情報を共有に努め、早期の進路決定につなげる。
3	卒業時の進路決定	・農業法人の説明会や、農業関連企業へ就職したOBとの座談会等を開催し、農業関連の就職先への学生の理解を深める。 ・個別指導の強化により、求職と求人のマッチングを図る。	・卒業時進路決定率　100%	・卒業時進路決定率　100% ・農業法人説明会を２回、ＯＢとの意見交換会を１回実施した。 ・進路未決定者には、企業訪問を促すとともに、ハローワークと連携して就職活動を支援した。	A	・法人説明会やＯＢとの座談会と併せて、企業説明会や企業訪問を積極的に進め、12月には進路が決定しているように努める。

※進路意識、就職活動意識の高揚を図るとともに、基礎学力の向上のほか、履歴書・エントリーシート等の作成など進路決定に向けた支援の充実、体制の強化を進める。

重点目標		**D　地域の担い手に対する研修による多様な人材の育成**		総 合 評 価	A	評価基準（達成度）　A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった
課　　題		活動計画（具体的方策）	評価指標（数値目標）	達成度と活動の実施状況	評価	次年度への課題と対応策
1	農業経営の発展に向けた研修の充実強化	・農業経営に必要な資格免許として、応用技術研修（トラクター、けん引、小型建機、アーク溶接、フォークリフト）を実施する。 ・受講者へのアンケートを実施し、研修内容をより充実していく。	・受講者数(資格取得者数) 資格取得者　50名以上 （R3実績：59名） ・研修者の満足度 10点満点の8以上 （R3実績：9.4）	・資格取得者　58 名 小型建機　19 名 トラクター　20 けん引　9 アーク　1 フォーク　9 ・研修者の満足度：9.1	A	・次年度も引き続き資格取得を促進するため、研修や申請についてサポートしていく。

※実践的な農業体験の場の提供と関係機関等との連携による即戦力となる人材の育成を図るとともに就農定着を進める。